

第 125 回

宝禅寺 寺子屋塾

高山彦九郎と赤城信仰

近世の旅行記に見る江戸時代の赤城神社

～御神体の移り変わりと、古代文字に魅せられた人々～

講師よりメッセージ・・・桐生市史調査員 小坂 節子 氏

江戸時代中期、太田市に生まれた儒学者・高山彦九郎は日本中を旅して膨大な旅日記を残したことで知られています。一般人の観光目的の旅とは一線を画すその旅の詳細なデータは、現代の私たちに江戸の当時を鮮やかに伝えてくれます。今回は、皆さんに高山彦九郎をご紹介しますとともに赤城信仰の知られざる側面をお話できればと思います。皆さんも彦九郎と一緒に 250 年前の赤城神社へ旅しましょう。

【講師・小坂節子氏プロフィール】

1969 年吾妻町生まれ。群馬県立女子大学文学部国文科卒。高山彦九郎研究会幹事。平成 30 年より第5・6期群馬学リサーチフェロー。令和4年より桐生市史調査員。

論文に「寛政三年蛮舟漂着と高山彦九郎」「高山彦九郎日記」に見る「記録」と「救民」「齒佛考」など。

1. 日 時 令和5年11月11日（土）午後2時～

2. 場 所 前橋市上泉町 1277-1 宝禅寺 TEL 027-269-4350

3. 講 師 桐生市史調査員 小坂 節子 氏

○参加料 500 円（講演の教材購入や資料作成に使わせていただいております）

新型コロナウイルスの規制緩和を受け、9月から4年ぶりに寺子屋塾を再開いたしました。皆様に再びご参加していただけるかどうか不安に思いながらの再出発でしたが、思ったより多くの皆様にお集まりいただき大変感激いたしました。本当にありがたい事と御礼申し上げます。再開なった寺子屋塾の第2回目は現太田市出身の儒学者高山彦九郎と赤城信仰のお話しです。全国各地での功績があるにもかかわらず地元群馬県ではそれほど知られていない高山彦九郎ですが、今回詳しく紹介していただきたいと思います。また、あわせてその旅日記から見る赤城信仰のお話しもしていただきます。ぜひご参加ください。

宝禅寺住職 高橋 賢靖
宝禅寺法嗣 小林 賢正
寺子屋塾 事務局 一同